

i) 人件費比率、資本費比率が高い

黒字病院の人件費比率は55.4%に対して赤字病院は62.7%と7ポイント以上も高い。

資本費比率も黒字病院で4.6%、赤字病院7.1%と、大きな相違が見られる。特に金利負担率は黒字の0.9%に対して、赤字病院は2.3%と2.5倍以上の開きがある。この結果、固定費比率では10ポイント以上もの格差が生じ、赤字病院はコストの硬直性が著しい。

ii) 安全性指標も極端に悪い

黒字病院の自己資本比率は、47.7%と5割近くに上っているのに対して、赤字病院は17.2%と2割を切る低水準にある。

借入金借入比率に見られるように、医業収益に対して、赤字病院は黒字病院の約7割増しである。これが金利負担に格差をもたらす要因となっている。

iii) 集患力が弱い

入院患者数については、1床当り入院患者数や医師・看護師1人当り入院患者数に見られるとおり、黒字・赤字病院ではほとんど差異は見られないが、外来患者数では赤字病院が大きく見劣りする¹。

1床当り1日平均外来患者数は、黒字病院2.0人に対して赤字病院1.0人と、半分である。これが医師・看護師1人当り外来患者数で大きく見劣りする結果となっている。医師1人当り外来患者数は黒字病院15.9人、赤字病院10.2人。看護師1人当り外来患者数は黒字病院3.3人、赤字病院1.8人。

病院で外来患者が多いということが、本来の姿からいえば議論の余地のあるところだが、現状では経営上の現実の問題として、外来患者の多いことは、収益面だけでなく、将来の入院患者につながる点や、また、地域における当該病院の評価、人気を測るバロメーターとしても重要である。

また外来患者数の過去3年間の推移を見ると、赤字病院では減少を続けていることは特に注目に値する(表11)。

恒常的黒字病院の1床当り1日平均外来患者数は2.0人でこの間横ばいだが、これに対して赤字病院のそれは、平成16年度の1.3人から18年度には1.0人へ、2割強もの減少を見せている。また、病床利用率も76.2%から71.4%へ低下している。

¹ 外来患者数についての説明は、一般病院についての説明であり、一般病院以外では機能が異なるので当てはまらないことに注意。